

OVER BRIDGE

OVER BRIDGE 2025

SPECIAL FEATURE

特集2
P5-7 課外活動団体紹介

特集3
P8 学部紹介
スポーツ・健康科学部

SPECIAL FEATURE

特集1 特別座談会vol.3
P2-4 女子長距離を語る



DBU NEXT



INFORMATION



LINE公式アカウント
「大東サポーターズ」

お友だち登録はこちら！



大東大のニュースをまとめた「DBU NEXT大東ニュース」を毎月1回配信中！
各種イベントのお知らせも！

大東文化大学
百年史(中巻)

Webで公開中！

2025年3月発刊
※冊子での配布は
行っておりません



大東大オリジナル
グッズショップ



大東大のマフラータオルやバッグ、キャップ等販売中！
2025年新発売は、オリジナルドリップコーヒー！
文化功労者の高木聖兩名誉教授の揮毫「博渉」を
パッケージにしたドリップ式の猿田彦コーヒー。

新発売

オリジナル
宇治タオルとの
セット販売も！



DBキャップ



今治ハンドタオル



アクリル
カラビナ

他にも多数の
オリジナル商品
をご用意しています



キャンバスタートバッグ



ジャガードハンドタオル



↑ Webでお読み
いただけます



皆様のお越しをお待ちしております
秋はぜひ大東大にお越しください！



2025
10/25(土)

場所 東松山
キャンパス

ホームカミングデー

ホームカミングデーの最新情報はWEBでチェック！



スポーツ・健康科学部創設20周年イベント、
男子バスケットボール部
ホームゲームも同日開催予定！
他各種イベント開催予定！



※写真は、2024年
ホームカミングデーの様子

2025
11/1・2(土・日)

場所 板橋
キャンパス

大東祭開催

詳細情報は、大東祭HPにてお知らせいたします。



野外ステージでのパフォーマンスや
多目的ホールでのコンサートやイベント、
屋台や模擬店、キッチンカーなどが出店予定。



※写真は、2024年
大東祭の様子

女子長距離を語る

卒業生 鈴木優花さん
監督 外園隆さん
現役生 野田真理耶さん
によるスペシャルトーク

過去の対談はこちら



Featured interview



常に挑戦者としての姿勢をもって

◆高校のとき進路として大東大の陸上競技部を選んだ経緯を教えてください。
鈴木：私は当初、実業団か大学か迷っていましたが、進学へ気持ち傾いたのは高校2年になってからだだと思いますが、その年の冬、雪の降る秋田へ外園監督が訪ねてきてくれました。そのとき覚えてるのは、私に顔をぐっと近づけてすごい勢いで「君なら絶対強くなれる！」と言われて(笑)、気持ち完全に向いて、それが入学の決め手になりました。

◆監督はどのような基準で選手をスカウトするのですか。
外園：女子長距離を創設したとき掲げたキャッチフレーズは、「大東文化大学から世界へ」というものでした。私はスポーツ医学が専門でトレーナーという立場で多くの一流選手と接してきました。

◆お二人は大学に入ってからどのトレーニングでどのように成長を実感しましたか。
鈴木：日本あるいは世界のトップレベルを目指すにはガムシヤラだけでは勝てないと思っていましたが、監督の指導のもと科学的な練習によって、すぐに効果が

出ました。「動き作り」という効率の良い走り方を身に付けるためのサーキットトレーニングを丁寧に繰り返し、重心移動や足の出し方、接地などを改善することで燃費良く走れるようになり、かつスピードもアップできました。走っていて一歩の進み具合が全然違うところですから実感できましたね。

野田：高校の練習は走り込みが中心で、レースでもガムシヤラな走りでも無駄な体力を使っていたと思います。大学では監督の指導のもと、筋力トレーニングで体の弱かった部分を強くなりたり動き作りでフォームや接地を改善でき省エネの走りができるようになってきたと思います。

外園：怪我をしない体作りのため理論的にどうすべきか、選手たちに伝えるための動き作りも大切です。筋力の使い方にも細かく指導します。そういうものが一週間ごとにプログラム化されています。

◆確かに鈴木選手は大学に入ってすぐに頭角を現しましたね。
鈴木：大学1年那时的日本学生個人選手権で5000mに出場して大会新で優勝しました。それまでだと3000mでバテていたと思いますが「走れちゃった」という感じでした。駅伝のときもそうでした。

外園：個人選手権のときはとにかく押していけと言ったら、グングン走りましたね。高校時代のトップランナーたちを尻

目に優勝して、周囲を驚かせました。駅伝でも13位でタスキを受けてごぼう抜きしてトップに立った、そういう奇跡に近い走りをしましたね。あの走りを見て私のなかで鈴木選手の代名詞は「勝負師」になったんです(笑)。

ユニバーシアードで金メダルを獲ったことで、マラソンで日本代表になり世界を狙おう、そう決意したんです。鈴木

◆鈴木選手は大学時代、数々の大会で活躍されましたが、思い出深い大会を教えてください。
鈴木：個人としては2年那时的ユニバーシアードナポリ大会のハーフマラソン金メダルです。あの大会は、マラソンで世界を狙おう、日本代表になるんだと志すきっかけになったので、一番印象に残っていますね。もうひとつは、名古屋ウィメンズマラソンで5位になった大会です。監督との最後のレースでしたから何として



2023年に改修したトラックは
緑色から青色に変わりました

も結果を残したいと、思いを込めて走りました。それがまたパリオリンピックのマラソン日本代表選考レースへの出場にもつながっていききましたから。駅伝では4年那时的大学女子選抜駅伝が最後だったしすごく印象に残っています。チームには走りたくても裏方に徹してくれる仲間もいますから、皆の分の思いも一緒に体現したいと思って一歩一歩全力で集中して走りました。

◆野田選手はこの2年間でどの大会が印象に残っていますか。
野田：1年の時、日本学生女子ハーフマラソンに出場して優勝できたことです。初めてのハーフマラソンでしたが、松江まで家族や親戚、友だちがたくさん応援に来てくれて楽しく走れて結果も出せたので嬉しかったです。今年も同じ大会で2位になりワールドユニバーシティゲームズの出場権を掴むことができました。さきほど鈴木先輩から世界で走るため、勝つためのアドバイスをもらったので世界の舞台でぜひ役立てたいと思います。

パリオリンピックの鈴木先輩の走りはチーム皆で見っていました。上り坂で追いついたときの凄さは衝撃的でした。野田

目の前を鈴木選手が走っていくときは、涙が止まらず、ただ「頑張れ！」と叫んでいたことしか覚えていません。外園



現役生 野田 真理耶
スポーツ健康科学部・スポーツ科学科3年
主な実績/全日本大学女子駅伝対校選手権2024年(1区・1位)、第27回日本学生女子ハーフマラソン選手権大会1位、FISUワールドユニバーシティゲームズ(2025/ライン・ルール)ハーフマラソン日本代表出場権獲得。



卒業生 鈴木 優花
2022年 スポーツ健康科学部・スポーツ科学科卒業生生命グループ所属。
主な記録/マラソン:2時間21分33秒(2025年大阪国際女子マラソン)主な実績/2019年夏季ユニバーシアードハーフマラソン個人・団体1位、2024年パリオリンピック女子マラソン日本代表6位。



監督 外園 隆
大東文化大学 陸上競技部女子長距離監督
日本で初めてSAQ(スピード・アジリティ・クイックネス)トレーニングを導入。日本スポーツ界に新たなトレーニング方法をもたらした。2010年に創部された陸上競技部(女子長距離)を短期間で全国トップレベルに導いた。

大東祭実行委員会

私たちは大東祭全体の企画、運営を担当しています。組織は、運営局、総務局、芸能局、情宣局、財務局の五つの部門で役割を分担しています。年に一度の大東祭を毎年進化させるため、そして何よりも来場者に「来てよかった」と感じていただける大東祭を目指しています。また大東生が大東祭を知ってもらうため、ピラ配りやSNSの強化を図ります。100回の歴史を踏まえ、今回は「新たな再スタート」を掲げ、大東祭実行委員一同、新たな気持ちで大東祭に臨んでいます。卒業生の皆さまには奮闘している我々後輩の姿を見ていただきたいです。ぜひ101回大東祭にお越しください。



since
1924

各担当活動とは別に、
週7回の全体会も
実施中



中央執行委員会

大東文化大学の全学生組織を統括し、学生自治会の最高議決組織、並びに学生組織の最高執行組織です。学生と大学の仲介役でもあり、公認サークルの統括、学内イベントの企画・運営など、学校全体の活性化を目指しています。今期の目標は、「責務の遂行と希望の付託」です。組織の職責を全うすると共に、組織の課題を可能な限り解決し、次世代の自由度を高め、可能性を切り拓く所存です。我々の代はコロナ禍最後の世代です。パンデミックで自粛していた学生イベントを盛り上げるため、自分たちで企画を考え、行動し、大東文化大学を盛り上げたい、在校生の学生生活を豊かにしていくために精進していきます。



since
1976

大東生交流会・
ハロウィン等の
新イベント企画中

学生自治会組織

全學応援団

チア部は応援活動と
チアリーディングを両立



全學応援団は、「日本一の応援団」となるべく、日々活動に励んでいます。「全學」には、すべての大東生を応援するという強い意味が込められています。熱烈な闘志、限らない勇氣、確固たる信念を持ち、部活動の応援をはじめ、復興支援や地域イベントに積極的に参加しています。また、大学応援団フェスタなど、多くの大学が集まるイベントにも参加しています。今年度の目標は、「切磋琢磨し合い、全学生にエールを送る」です。今後は、地域の人々にも笑顔を届ける活動も進めていきます。これからも応援団の活動にご注目いただき、さらなるご指導を賜りますようお願い申し上げます。

since
1954



放送協会(DHK)

ラジオ番組など
新たなことに挑戦!



since
1966

DHKは、現在2つの部に分かれており、アナウンス部では発声・滑舌練習、台本読みを通じて演技力や、アナウンス力を高めています。一方技術部では、音響機材の設営や操作を練習し、裏方としての知識を深めます。式典の司会や音響、ラジオ番組、映像作品の制作のほか、他大学を招いて番組発表会を開催しています。年5回の番組発表会は、制作から運営までの全てが部員主体であるため、大きな成長の場であり、ここで得た経験がアナウンス依頼や機材借用といった、自治会業務に活かされています。今後は、資格取得に力を入れ、レコーディングや編集も対応できるように技術向上を図り、活動の幅を広げていきます。

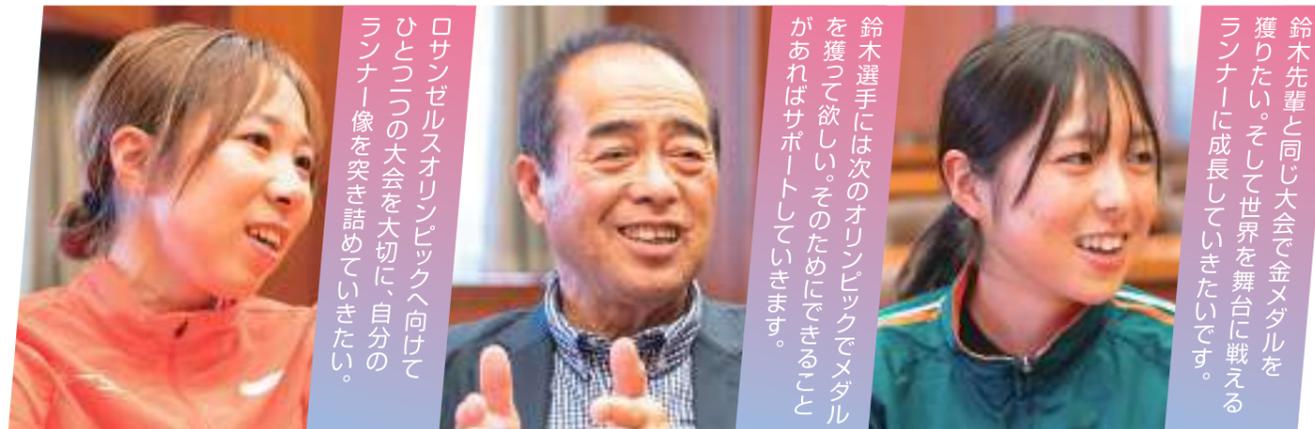
特集 2

歴史ある団体を紹介!

課外活動団体紹介

※設立年は、団体の自己申告によるものです。

◆社会人になってからの鈴木選手といえばパリオリンピックだと思えますが、振り返っていかがですか。
鈴木…パリオリンピックは大学から目標としてきた、マラソン日本代表として初めて出場させていただいた国際大会になります。世界選手権より規模は大きく、そこに出られたことをすごく嬉しく思いますし、支えていただいたすべての方々への感謝の気持ちでいっぱいです。終えてみて6位入賞という結果でした。世界の走りやどんな高速化していくのかでコースを攻略し、勝負を挑んで実践できたのはすごく大きな経験になりました。
野田…私は合宿中だったのでチームの皆で応援していました。初めてのオリンピックで冷静かつ大胆な走りや衝撃を受けましたし、上り坂で離されるのではなく追いついたところでその凄さがより伝わってきました。チームの皆が先輩から刺激を受けました。
外園…私は現地に応援に入っていました。一番キツイ上り坂でも声をかけようとしていたところ、少し遅れて入ってくるという情報があったのですが、姿を確認してからほとんど先頭グループに近づいてくるのが見えました。あの姿は目に焼き付いています。先頭グループに追いつき世界のトップランナーたちと目と目を走っていきるときは、涙が止まらず、かけようと思っていた言葉も出てこなくて、ただ「頑張れ!」と叫んでいたことしか覚えていません。今思うのは、



鈴木先輩と同じ大会で金メダルを
獲りたい。そして世界を舞台に戦える
ランナーに成長していきたいです。

鈴木選手には次のオリンピックでメダル
を獲って欲しい。そのためにできること
があればサポートしていきます。

ロサンゼルスオリンピックへ向けて
ひとつの大会を大切に、自分の
ランナー像を突き詰めていきたい。

本場に鈴木選手の知慮を結集した勝負師のレースだったと思います。次のオリンピックでは絶対メダルを獲って欲しいと思っています。私がずっと言い続けてきた、部の伝統として根付いているのは「常に挑戦者であれ」ということです。これからの挑戦を続けてくれるでしょう。
◆「挑戦者であれ」という言葉を受けて、最後に、お二人から今後の抱負、目標をお願いします。
野田…ユニバーシテイゲームズで鈴木先輩と同じように金メダルを獲ること。また駅伝で優勝を勝ち取りたいです。もう一つは、鈴木先輩が持っているマラソンの日本学生記録にチャレンジしたいです。
鈴木…今後はマラソンでのタイムを狙い、ランナーとして終盤に入っていくので、そこで自分がどのようなランナーで在りたいかを突き詰めていきたい。そしてもちろん監督がおっしゃったように、ロサンゼルスオリンピックに向けて一つ一つの大会を大事にしながらかつ頑張っていきたいと思っています。

詳しくはWEBへ

この記事をより詳しくお読み
になりたい方は、WEBへ。
下記のQRコードから、ぜひ
ご覧ください。



WEBは
こちら!

活躍する大東人

参考元：大東文化大学HP「MEDIA—活躍する大東人—」、
大東スポーツHP抜粋期間:2024/4/1~2025/3/31

- ・作田武俊 さん (2011年卒・中国語学科)「2024年パリパラリンピック」パラテコンドー日本選手団監督派遣
- ・新浜レオン さん (2019年卒・国際関係学科)「第75回NHK紅白歌合戦」出場
- ・深瀬理香子 さん (2022年修了・スポーツ・健康科学専攻)「ISU世界シンクロナイズドスケーティング選手権」出場・チーム優勝(連覇)
- ・稲川くるみ さん (2022年卒・スポーツ科学科)「ISUワールドカップ スピードスケート競技会」女子500m出場
- ・ウィリアムソン レミ さん(2022年卒・英語学科)「ISUワールドカップ スピードスケート競技会」女子5,000m出場
- ・鈴木優花 さん (2022年卒・スポーツ科学科)「2024年パリオリンピック」出場・マラソン6位入賞
- ・中村拓人 さん (2023年卒・スポーツ科学科)「FIBAアジアカップ2025 予選 Window2」バスケットボール日本代表選出、出場
- ・岩城海翔 さん (2024年卒・国際関係学科)「2024プレジデントカップ テコンドー大会」出場・男子68kg級優勝

Check!

その他、文化・研究系の課外活動(クラブ・サークル)はこちら



美術部

美術部では、六月祭、大東祭、桐美展といった学内の展示会を中心に、他大学との合同展にも積極的に出展しています。活動は週2回、東松山と板橋の両キャンパスに分かれて行っています。作品制作、合同制作や基礎練習に加え、アクリル画、油絵、墨絵など、幅広い画材に触れられるのも魅力です。より進化した美術部の姿を展示会や学内イベントで披露することで、新たな試みも計画中です。これまでは落ち着いた雰囲気の展示が多かったのですが、今後は時代に合わせた新しい展示の形を追求し、来場者の皆様楽しんでいただけるような企画を考えています。ぜひ私たちの作品を見に来てください。

多彩な画材に触れ、個性を生かした作成に挑戦中



since 1963

注目のクラブ

青桐賞受賞
2024年度

防災研究同好会「STERA」

私たちは、「大学生の目線から防災を考えよう」という趣旨のもと、2024年に同好会に昇格。「守るを学ぶ」をテーマに、大学のみならず、地域を含めた集団的な防災力の向上を目的に活動しています。毎週定例会を開催し、また地域連携活動として学外団体との連携、防災イベントの参加・運営、防犯パトロールを行っています。2025年度は、大東生の防災力向上と東松山・板橋両キャンパス周辺地域の防災力向上を目標に掲げています。個人の防災意識を高め、防災行動によって自らを守るとともに、学生は地域支援の役割があることも認識し、視野を広げた防災意識と意識向上を目指します。そのために、学内行事への参加、学生向けの防災イベントの拡充、板橋地区小学校の出前授業の規模拡大、東松山・板橋地区の方々との地域連携の強化に取り組みます。



since 2020

毎週定例会を開催し、防災学習・共有を実施中

青桐賞とは？

学業や正課外活動などで優れた評価を受け、本学の名誉を高めた個人、団体を表彰する青桐賞。2024年度受賞した団体を紹介します！

青桐賞受賞
2024年度

大東文化大学 e-Sportsサークル

2022年の発足、公認サークルとして登録後は、大学対抗オンライン大会3位、大学日本一を決める大会「VALORANT CAMPUS SUMMIT (以後VCS)」4位などの実績を残しました。今後の目標は、同好会への昇格に向けた継続的な運営と、大学eスポーツシーンにおいて「大東文化大学e-Sports」の名を確立することです。普段は100名を超える部員が個人練習し、月1回全体企画として、サークルで指定したゲームタイトルマッチや、サークル内で大会を実施しています。外部大会前には、スクリム(練習試合)やMAP研究など、本番に向けた練習に励みます。今後は学年やゲーム内ランクの垣根なく、各々の目標に到達できるように交流を活性化させ、「VCS」で優勝を狙います。今、eスポーツはとも注目されています。成長途中の大学eスポーツシーン全体を盛り上げるためにも、私たちのサークルを見かけたら、ぜひ応援をお願いします。



since 2022

「VCS」以外の外部大会にも多くの学生が出場中！

アカペラ部ハーモニーコリン

旧:ハーモニーコリン



since 2014

主な活動は、年2回の学内イベントと年5回のライブ活動です。部員はそれぞれのライブに向けてバンドを組み、発表します。冬ライブでは二度にわたる部内オーディションがあり、通過したバンドのみが出場します。外部イベントに参加するバンドも多く、2024年度は初めて部として外部イベントで披露しました。今後も部員が楽しんで歌える場所、大切な仲間たちとの憩いの場であるという思いを変えずに、活動を発展させながら新しい試みにも挑戦するつもりで取り組まれます。大東祭や冬ライブは、アカペラに触れたことのない方にも、楽しい時間をお届けすることができるライブです。ぜひご来場ください。

6月祭・大東祭の他、夏・冬・卒業ライブ等を開催



お笑い研究部「築笑会」

旧:落語研究会

目指せ！「大学芸会」「NOROSHI」優勝！



創設当初は学内でのライブのみでしたが、大学のお笑いの大会出場や外部のライブに出演するなど、活動の幅を広げてきました。今では他大学との交流も盛んで、合同ライブや対決ライブも開催しています。大学内では、6月祭や文化祭で漫才やコントを披露しています。普段は週1回の部会で、漫才やコントのネタを作り、ネタ見せ、大喜利など様々な活動を行い、定期的にライブを開催するなど、築笑会の認知度向上に努めています。年々部員数は増加し、規模も拡大しているため、今後は「大学お笑い」のシーンで注目される部になりたいです。将来は築笑会出身のプロのお笑い芸人が出るかもしれません。応援よろしくをお願いします。



since 1970

文化系・研究系

映画制作部 旧:映画研究会

これまでは「映画研究会」という名称で活動してきましたが、映画制作という活動内容を、より明確に打ち出すために「映画制作部」に名称変更しました。活動内容は、まさに「映画を撮る」ことに尽きます。部員の中には「映画は観るもの」で「作り手」になることなど考えていなかった者も少なくありません。先輩方から一から色々なことを教わり、撮影の難しさや一緒に作品を作る楽しさを感じることで、映画制作の深みにはまり込んでいきます。制作した映画は主に大東祭で上映してきましたが、今後は外部のコンテストへの出展も検討しています。

30名以上の部員で、講演・収録・編集等も分担



since 1968

劇団虚構

since 1972



現在は1~3年の各学年10名以上が所属中

コロナ禍で部員が集まらず、一時部員が1名となり休部寸前となりましたが、現在は30名以上が所属し、活動しています。主な活動は、新入生歓迎会、六月祭、大東祭、冬季外部公演の年4回です。「舞台を創るのは役者だけじゃない、裏方だって演劇部員だ！」と日々公演に向けて活動しています。特に大東祭は1年生が初めて大勢の観客の前に立つ舞台です。本番ですべてを発揮できるよう、一致団結して臨みます。課題は3年生が板橋キャンパスへ通学するため、学年を越えた交流を絶やさずに、連携を維持することです。各公演で、準備を円滑に進められるよう舞台制作に携わる部員がそれぞれの役割を全うできるように努めます。劇団虚構は、これからも途絶えることのないよう日々取り組んで参ります。



Check!

その他、文化・研究系の課外活動(クラブ・サークル)はこちら

